

島本町文化財調査報告書

第 5 集

町内遺跡範囲確認調査概要報告

平成 16 年 3 月

島本町教育委員会

序 文

本町は大阪市内、京都市内への通勤圏内にありこの繁栄がもたらす文化財や自然への影響は、はかり知れません。町内には、この繁栄を物語る多くの文化財が残されており、これらの文化財を保護し、保存していくことは、現代の我々の責務であります。烏本町では、埋蔵文化財についてもその保護と周知を行うとともに、未確認遺跡の確認も行なっております。

本書は山崎地区及び東大寺地区の埋蔵文化財の様相を明らかにするために、国庫補助事業として行なった遺跡範囲確認の成果を報告するものです。調査にあたりましては、多大なご指導ご協力を賜りました社会福祉法人大阪水上隣保館ならびに大阪府教育委員会をはじめ多くの関係諸機関の皆様には深く感謝しお礼申し上げますとともに、本町の今後の文化財行政に対し、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年3月

烏本町教育委員会

教育長 日 高 久 和

例 言

1. 本書は、平成15年度国庫補助事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した遺跡範囲確認調査における概要報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局社会教育課職員を担当者として、平成15年9月9日に着手し、平成16年3月31日をもって終了した。
3. 本書に用いた標高は、東京湾平均海面（T. P.）を基準とし、方位は、新平面直角座標第Ⅵ系における座標北である。
4. 本書の編集・執筆は、日紫喜勝重が行なった。
5. 現地調査及び整理作業においては関係各機関ならびに、下記の方々から有益なご指導ご教示を賜った。記してここに感謝の意を表します。（敬称略、順不同）
福田英人・有井宏子・奥和之（大阪府教育委員会）、林 亨（大山崎町教育委員会）
6. 現地調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。（順不同）

[調査員]	久保直子、坂根 瞬
[調査補助員]	吉村光子、村山清己
7. 本調査における写真・図面等については島本町教育委員会で保管している。

目 次

序 文

例 言

目 次

第1章	はじめに	1
1.	地理的環境	1
2.	歴史的環境	1
第2章	調査の成果	3
1.	山崎地区周辺遺跡範囲確認調査	3
2.	東大寺地区周辺遺跡範囲確認調査	6

挿図目次

第1図	島本町内文化財分布図	2
第2図	トレンチ配置図 (1/5000)	3
第3図	T-2 調査区平面図	4
第4図	T-2 調査区土層断面図	5
第5図	トレンチ配置図 (1/5000)	6
第6図	T-1～T-4 土層断面柱状図	7
第7図	T-5～T-8 土層断面柱状図	8

図版目次

- 図版1 山崎地区遺跡範囲確認調査
調査地全景（南から）
T-2 全景（北から）
- 図版2 山崎地区遺跡範囲確認調査
T-2 西壁断面（東から）
T-2 拡張部全景（西から）
- 図版3 山崎地区遺跡範囲確認調査
T-2 拡張部東壁断面（西から）
T-2 拡張部南壁断面（北から）
- 図版4 東大寺地区遺跡範囲確認調査
T-1 完掘状況（北から）
T-2 完掘状況（北から）
T-3 完掘状況（北から）
T-4 土層断面（南から）
T-5 土層断面（南から）
T-6 土層断面（南から）
T-7 土層断面（西から）
T-8 土層断面（西から）

第1章 はじめに

1. 地理的環境

島本町は大阪府の北東部、京都府との府境に位置する。淀川を挟んだ部分での大阪・京都の府境は、天王山と牛駒山地の延長となる男山丘陵が並び、その地形は山崎伏隆部と呼ばれ、京都盆地と大阪平野の分岐となる。面積は16.78km²である。町域の大部分は北東部の丹波高地の延長である西山山塊、天王山を中心とした丘陵で構成されている。そのために自然も多く残されており、大字大沢地区のすぎ、大字尺代地区のやまもも、大字広瀬地区のツブラジイ林は府の天然記念物に指定されている。一方、東南部は桂川、木津川、宇治川の合流によって形成された沖積地が広がり、また北部は京都市、長岡京市、大山崎町、南部は枚方市、西部は高槻市、東部は京都府八幡市に隣接している。このような地理的位置は先史時代から現代に至る島本町の歴史の発展を支える重要な条件となってきた。

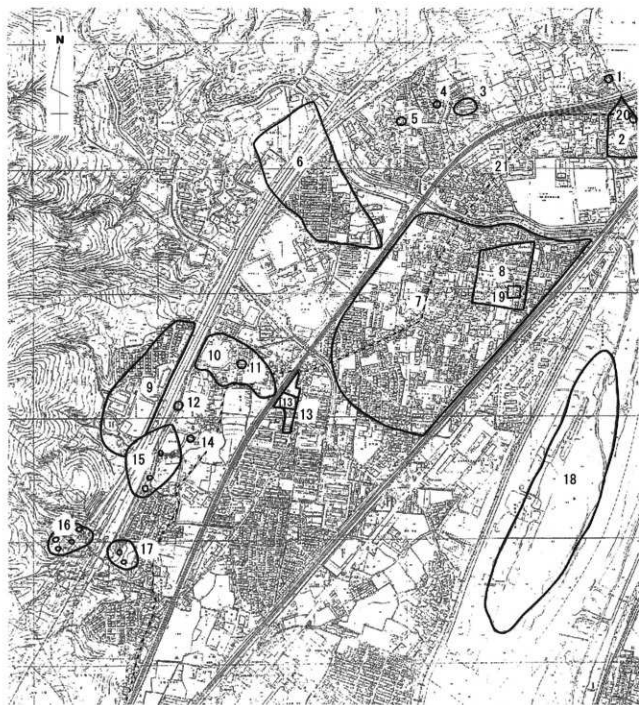
2. 歴史的環境

島本町の歴史は古く、現在確認されているところでは、山崎西遺跡で採掘された国府型ナイフ形石器の存在から旧石器後半と考えられる。その後、遺構は確認されていないものの越谷遺跡で縄文時代後期の包含層が検出され、水無瀬荘遺跡では、晩期の土器が出土していることから周辺域での生活が想像される。弥生時代には、同じく越谷遺跡で弥生時代後期の土坑が検出されている。古墳時代に入ると、集落は検出されていないものの、越谷遺跡で円墳の周溝と思われる遺構が検出され、源吾山遺跡や源吾山古墳群、神内古墳群で須恵器が採集されている。

飛鳥時代には、鈴谷瓦窯で瓦が生産された。出土遺物からそれに関連する遺跡として御所ノ平遺跡が挙げられる。奈良時代になると、水無瀬川を挟んだ対岸には奈良東大寺の荘園「水無瀬荘」が置かれ、集落が広瀬遺跡などで営まれた。大原駅が現在の国史跡桜井駅跡周辺に置かれたとも伝えられている。平安時代には、引き続き広瀬遺跡、水無瀬荘遺跡のほかに、越谷遺跡でも生活が営まれ、推定山城国府跡周辺との関連が注目される山崎東遺跡では、平安時代後期の溝と思われる落ち込みが検出されている。また山城国府跡の北東部にあたる丘陵には、山崎古墓が築かれ、平安時代の四耳壺が出土している。

鎌倉時代には、後鳥羽上皇が水無瀬に離宮を造営し、この地をこよなく愛したといわれた。その後、跡地に御影堂が建てられ現在の水無瀬神宮となっており、その周辺に位置する広瀬遺跡と共に今後の実態解明が期待される場所である。また山崎東遺跡でも、室町時代の遺物が多数出土しており、この地域の中世における繁栄が想像される手掛かりが得られはじめています。

以上、歴史的環境について簡単に触れたが、資料が乏しいため埋蔵文化財包蔵地として周知されていない所も多数存在するものと思われる。このため本町では、平成13年度より遺跡範囲確認調査を実施し、今回はその3次調査にあたる。



第1図 島本町内文化財分布図 (1/15000)

1. 山崎古墓 2. 山崎東遺跡 3. 山崎西遺跡 4. 鈴谷瓦窯跡 5. 御所ノ平遺跡 6. 水無瀬荘跡 7. 広瀬遺跡 8. 水無瀬離宮跡 9. 桜井御所跡 10. 桜井遺跡 11. 桜井焼窯跡 12. 伝待宵小侍礎基 13. 桜井駅跡 [13] [國]史 桜井駅跡 (橋木正成伝説地) 14. 御所池瓦窯跡 15. 越谷遺跡 16. 源吾山遺跡 17. 神内古墳群 18. 広瀬南遺跡 19. [國]重文 水無瀬神宮茶室 客殿 20. [府]指 有文 關大明神社 21. 西園街道

第2章 調査の成果

1. 山崎地区周辺遺跡範囲確認調査

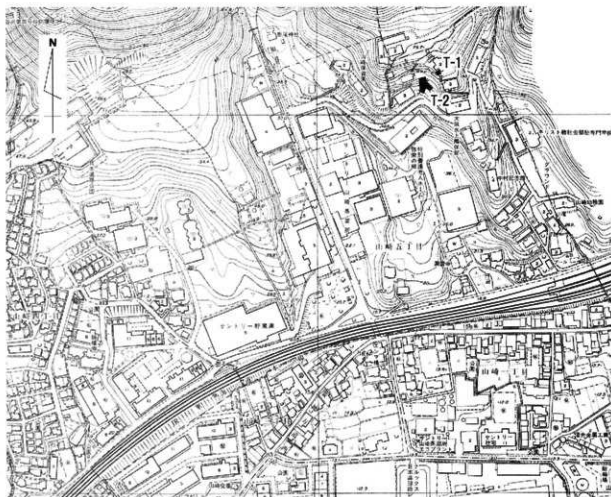
調査地：山崎五丁目地内

調査目的：山崎東遺跡並びに山崎西遺跡の遺跡範囲確認調査

調査期間：平成15年11月28日、平成16年1月9日～1月30日

調査面積：49㎡

調査方法：2か所調査区を設定した。T-1は(3m×1m)、T-2は(2.5m×12m+2m×8m)、の範囲で調査区を設定し、機械もしくは人力にて掘削後、調査を行なった。



第2図 トレンチ配置図 (1/5000)

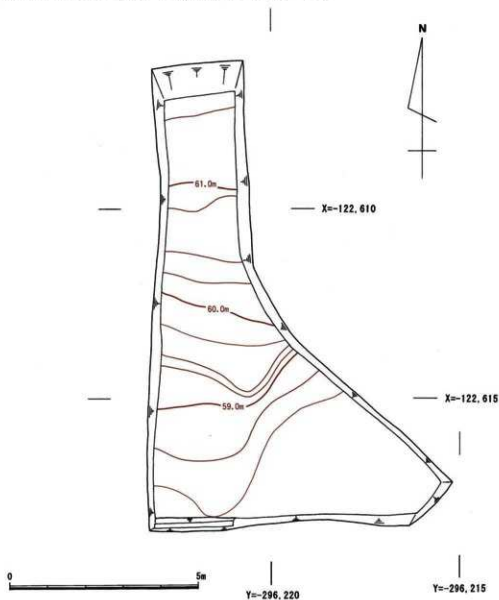
調査概要

T-1

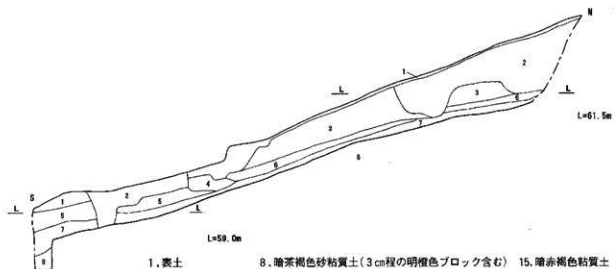
表土より1mほど掘り下げたが、岩盤にあたり、遺構・遺物とも検出できなかった。

T-2

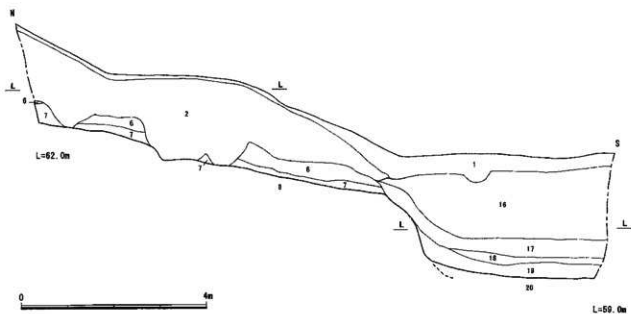
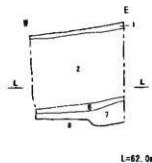
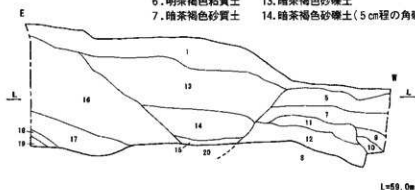
調査区内は斜面と平坦面が存在し、斜面のある南北方向と平坦面のある東西方向にトの字状に調査区を設定した。基本層序は第1層 表土、第2層 攪乱、第3層 黄橙色砂質土、第4層 明茶褐色粘質土、第5層 暗茶褐色砂質土の順に堆積する。南北方向は急斜面で遺構・遺物は検出できなかった。東西方向に設定したトレンチは盛土で平坦面が形成されており、盛土下層より、黒褐色の粘質土を検出したため南北トレンチと交差する部分を三角形形状に拡張し、調査を行ったが、谷地形を検出したのみで遺構・遺物は検出できなかった。



第3図 T-2 調査区平面図 (1/100)



- | | | |
|-------------|-----------------------------|--------------|
| 1. 表土 | 8. 暗茶褐色砂粘質土(3cm程の明褐色ブロック含む) | 15. 暗赤褐色粘質土 |
| 2. 攪乱 | 9. 明赤褐色粘質土 | 16. 明赤褐色砂粘質土 |
| 3. 黄褐色砂質土 | 10. 橙色粘質土 | 17. 黒褐色砂粘質土 |
| 4. 明茶褐色砂粘質土 | 11. 明黄褐色砂粘質土 | 18. 暗茶褐色砂粘質土 |
| 5. 茶褐色砂粘質土 | 12. 明褐色粘質土(マンガン含む) | 19. 明黄砂粘質土 |
| 6. 明茶褐色粘質土 | 13. 暗茶褐色砂礫土 | 20. 黒灰色砂質土 |
| 7. 暗茶褐色砂質土 | 14. 暗茶褐色砂礫土(5cm程の角礫多く含む) | |



第4図 T-2 調査区土層断面図(1/80)

まとめ

以上が山崎地区の遺跡範囲確認調査結果である。2か所のトレンチのいずれも遺構・遺物は検出できなかった。拡張部分については、湧水などにより、完掘はできなかったものの、土層観察からいくつかの谷が確認できた。調査区周辺に平坦面は少なく、T-1でも、岩盤を検出したことから周辺域で遺跡の存在する可能性は低いと考えられる。

2. 東大寺地区周辺遺跡範囲確認調査

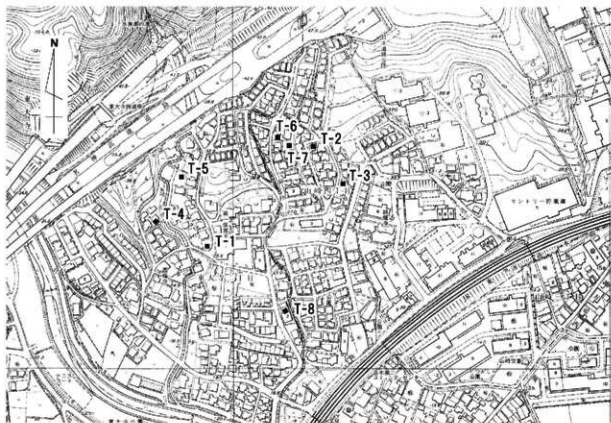
調査地：東大寺二丁目及び山崎四丁目地内

調査目的：御所ノ平遺跡並びに鈴谷瓦窯跡の遺跡範囲確認調査

調査期間：平成15年9月9日～平成15年10月8日

調査面積：16㎡

調査方法：8か所調査区を設定した。T-1は(1m×1m)、T-2は(1m×1m)、T-3は(2m×1m)、T-4は(2m×1m)、T-5は(1m×1m)、T-6は(2m×2m)、T-7は(2m×2m)、T-8は(1m×1m)の範囲で調査区を設定し、機械もしくは人力にて掘削後、調査を行なった。



第5図 トレンチ配置図 (1/5000)

調査概要

T-1

2か所トレンチを設定したが、すべて盛土で近代以降（おそらく町営住宅建設時）における造成土であったため、遺構・遺物は検出できなかった。盛土はさらに続くものと考えられ、地形から旧滝谷川の範囲内にあたる。

T-2

表土直下から地山面を検出した。遺構・遺物とも検出できなかった。

T-3

敷土直下から地山面を検出した。遺構・遺物とも検出できなかった。

T-4

表土直下は、近代以降（おそらく町営住宅建設時）に旧滝谷川を埋め立てた造成土で形成されており、遺構・遺物とも検出できなかった。

T-5

表土直下は、旧滝谷川と考えられる土層堆積で形成されており、60cm程度掘り下げたが湧水が激しく、遺構・遺物とも検出できなかった。

T-6

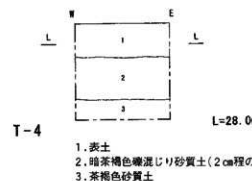
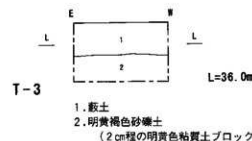
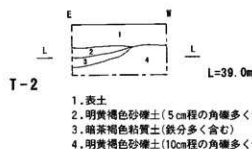
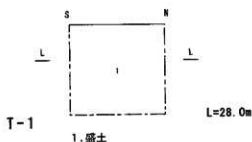
表土より150cm下げたが、層序は第1層 盛土、第2層 暗茶褐色砂粘質土、第3層 淡茶褐色砂礫土、第4層 明茶褐色粘質土、第5層 明黄色砂礫土、第6層 灰色粘質土の順に堆積する。遺構・遺物とも検出できなかった。

T-7

T-6と同じ土層堆積で、表土より150cm下げたが、遺構・遺物とも検出できなかった。

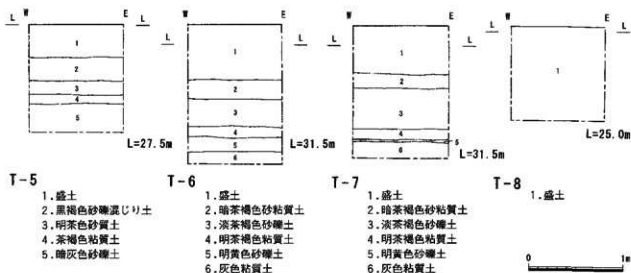
T-8

表土より100cm程下げたが、盛土は近代以降



第6図 T-1～T-4 土層断面柱状図 (1/40)

の造成土で、遺構・遺物とも検出できなかった。地形は周辺域よりも高く盛土はさらに深いものと思われる。



第7図 T-5～T-8 土層断面柱状図 (1/40)

まとめ

以上が今回の東大寺地区遺跡範囲確認調査結果である。調査区すべてで遺構・遺物は検出できなかった。しかし、前年度、同地区での遺跡範囲確認調査では、包含層から弥生時代の遺物が見つかっており、周辺域において生活痕跡が想定されるため今後とも調査の継続が望まれる。

参考文献

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 『島本町史』本文編 島本町史編さん委員会 | 昭和50年 |
| 『島本町文化財調査報告書』第1集 島本町教育委員会 | 平成3年 |
| 『水無瀬荘跡遺跡 発掘調査報告書』名神高速道路内遺跡調査会 | 平成8年 |
| 『越谷遺跡 他 発掘調査報告書』名神高速道路内遺跡調査会 | 平成9年 |
| 『島本町文化財調査報告書』第3集 島本町教育委員会 | 平成13年 |
| 『島本町文化財調査報告書』第4集 島本町教育委員会 | 平成14年 |

图 版



調査区全景（南から）



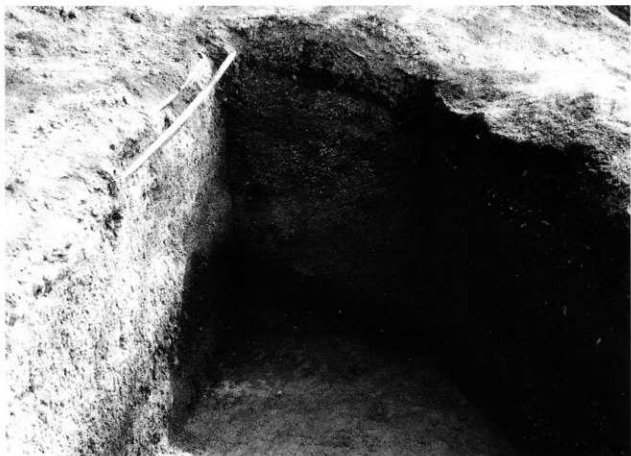
T-2 全景（北から）



T-2 西壁断面 (東から)



T-2 拡張部全景 (西から)



T-2 拡張部東壁断面（西から）



T-2 拡張部南壁断面（北から）



T-1 完掘状況 (北から)



T-5 土層断面 (南から)



T-2 完掘状況 (北から)



T-6 土層断面 (南から)



T-3 完掘状況 (北から)



T-7 土層断面 (西から)



T-4 土層断面 (南から)



T-8 土層断面 (西から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	町内遺跡範囲確認調査概要報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編著者名	日祭喜勝重
編集機関	島本町教育委員会事務局 社会教育課
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 Tel.075-961-5151
発行年月日	平成16年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
遺跡範囲外								
東大寺地区	島本町東大寺 二丁目他	27301		34° 53' 24"	135° 40' 12"	2003.9.9 ～ 2003.10.8	16	遺跡範囲 確認調査

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
遺跡範囲外								
山崎地区	島本町山崎 五丁目他	27301		34° 53' 39"	135° 40' 33"	2003.11.28 ～ 2004.1.30	49	遺跡範囲 確認調査

島本町文化財調査報告書 第5集

発行 島本町教育委員会
〒618-8570 大阪府三島郡島本町榎井二丁目1番1号
TEL 075-961-5151

発行日 平成16年3月31日

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0063 京都市中京区新町通竹屋町下ル
TEL 075-256-0961

